

『効果的なヤングケアラー支援に向けたケアマネジメントの展開』 ～プランニングに焦点をあてて～に参加して

報告者： アルテン赤丸居宅介護支援事業所 要藤 佳奈恵



令和8年8月4日、富山国際大学子ども育成学部教授 相山馨先生を講師にお迎えし、『効果的なヤングケアラー支援に向けたケアマネジメントの展開』～プランニングに焦点をあてて～の研修に参加しました。

研修では、ヤングケアラーを取り巻く現状や負担が子どもに及ぼす影響について学び、ケアマネジャーとしてどのように寄り添い支援を組み立てるかを考える貴重な機会となりました。



講師 相山 馨氏



特に印象的だったのは、家庭のことを他者に相談しづらい雰囲気や家族の問題を外に出すことへのためらいが支援につながりにくい状況を生んでいるということです。子どもたちは自分の置かれた状況を「当たり前」と受け止め、困りごとを言葉にできないことも多いため、ケアマネジャーが日々の関わりの中で少しずつ信頼関係を育て、「この人には自分の気持ちを話してもいい」と思える関係を築くことが重要であると感じました。

グループワークでは、事例をもとに利用者のケアプランの中にヤングケアラー支援の視点をどのように組み込むか検討し実際にケアプランを作成しました。子どもの発達段階に照らして子どもが必要以上のケアを担っていないかを丁寧にみていくことや子どもが本来やりたいことや安心して過ごせる時間を大切にできるよう支えることの重要性を学びました。こうした視点をもとに家族への支援やサービス調整でどのように子どもの負担を軽くできるかを考えながら子どもが子どもらしく過ごせる環境につながるケアプランづくりについて理解を深めることができました。

今回の研修を通して、ヤングケアラー支援には子どもの思いを丁寧に受け止める姿勢と家族全体を見通した支援の組み立てが不可欠であることを再確認しました。今後の実践において、家族の状況を見守りながらヤングケアラー支援の視点をもって利用者の幸せにつながる支援に努めていきたいと思えます。